

『看護実践能力向上シリーズ 与薬 全5巻』

技術をイメージ化し、 練習を繰り返すための 最適な教材

監修：市川幾恵・村山純一郎・大谷道輝／定価：各巻 33,600 円(本体 32,000 円＋税 5%)
発行：ビデオ・バック・ニッポン／TEL：03-3405-3173



看護技術は、対象によりよい看護ケアを提供するために習得すべき技の1つである。日本看護科学学会の看護学術用語検討委員会が定めた定義において、看護技術は「nursing art」と訳されている。アートにはそれが「表現する技術」であることや、「熟練と修練を要する技術」とであるというニュアンスが含まれており、同時にサイエンスとしての側面もあるといわれている。もちろん技術の前提には、明確な専門知識の裏づけをもっていなければならない。要するに対象によりよい看護ケアを提供するためには、この「アート」と「サイエンス」の融合が求められているということになる。

今回、看護の初学者である看護学生にも、新人看護師にとっても待望の与薬 DVD 全5巻が刊行された。この DVD は、「総論・薬の知識」「薬の管理とハイリスク薬の知識」「与薬技術とヒヤリハット対策①」「与薬技術とヒヤリハット対策②」「与薬技術とヒヤリハット対策③」で構成されている。

看護学生、新人看護師にとって看護技術を習得するにあたってその技術の流れをイメージできることは技術習得過程において効果的な影響を与える。例えば与薬前に行われる5Rの確認について、テキストに書いてある文字を覚えるだけでは安全に与薬する看護技術を習得したとはいえない。5Rの確認とは何と何をどのように確認していくのか、ダブルチェックとはどのようなことな

のかを映像を「見る」ことで学習することができる。さらに患者さんにどのような声かけをするのかなど具体的な関わりも映像を「見る」ことで確認することができる。そしてDVDのなかで、「こんなことありませんか?」「こんな時はどうしたらいい?」と根拠を考えさせる問いかけを行っている。また「注意しよう」という問いかけには、具体的にどのように対処すればよいのかということも映像を「見る」ことによって確認できる。学習したことを「見る」ことでイメージ化し、根拠を確認しながら実践につなげることこそが、まさに「アート」と「サイエンス」の融合を目指した看護技術教育につながるのではないかと考える。

看護技術は「技」でありまた「表現する技術」であることから、それを習得するためには繰り返しの練習が必要である。本校では、新カリキュラムを機に「見る」「やってみる」「わかる・できる」を段階的に学べる看護技術教育に本格的に取り組んでいる。与薬の授業でこのDVDを使って「見る」ことで与薬の技術をイメージ化し、「やってみる」ことで気づきを広げ、繰り返しの練習を通し「分かる・できる」につなげていく、そうやって身に付く技術教育に発展させたいと考えている。

このDVDは、与薬に関する看護技術として学んでほしい内容を十分満たしている教材としては是非手元におき、活用していきたいものである。